

地域ぐるみの鳥獣害対策
「捕獲応援隊」

捕獲応援隊の設置の背景

第11次鳥獣保護事業計画（平成25年3月）によって、新たに規定された「狩猟免許を所持しない者が補助者として捕獲に従事できる仕組み」をもとに設置するもの

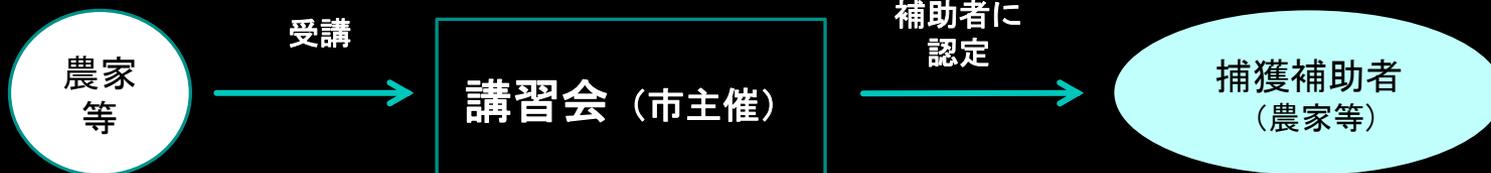
第11次鳥獣保護事業計画（平成25年3月）（抄）

第4の3の（4）の②の（ア）のⅤ

許可申請者が法人で、銃器の使用以外の方法による場合であって、従事者の中に猟法の種類に応じた狩猟免許所持者が含まれ、かつ、当該法人が従事者に対して講習会を実施することにより捕獲技術、安全性等が確保されていると認められる場合、従事者の中に当該免許を受けていない者を補助者として含むことができる。

制度の概要

市が主催する安全講習会を受講することで、狩猟免許所持者の捕獲活動の一部を補助することが可能



捕獲応援隊の構造

遠野市鳥獣被害対策実施隊の地区班・10班体制を単位に「捕獲応援隊員（農家等）」によるわなの管理・見回り協力を展開

実施隊長

●●班

実施隊（班長以下、隊員）



銃免許所持者

止め刺し
有害捕獲



わな免許所持者

わなの管理・見回り



捕獲応援隊員
（講習会受講者）

講習会受講により免許を持たなくても
「補助者」として活動が可能

●●班

実施隊（班長以下、隊員）



銃免許所持者

止め刺し
有害捕獲



わな免許所持者

わなの管理・見回り



捕獲応援隊員
（講習会受講者）

鳥獣被害対策実施隊・捕獲応援隊の役割

鳥獣被害対策実施隊、捕獲応援隊それぞれの役割分担を明確化し、捕獲応援隊は危険を伴わない部門のみを担当する

	わな設置	管理 (見回り)	管理 (再設置)	捕獲 (駆除)	管理 (撤去)	報酬
実施隊員 (わな免許)	○	○	○	○	○	○
実施隊員 (銃免許)				○		○
捕獲応援隊		○	△		△	

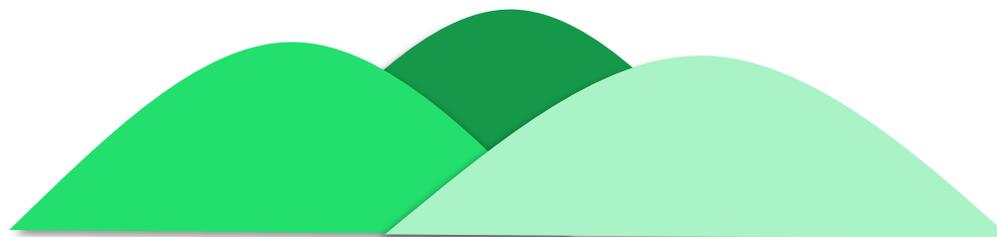
鳥獣被害対策実施隊・捕獲応援隊の活動範囲

山間部と農地周辺部の役割分担によって捕獲の効率化を図り捕獲数の向上を目指す。

鳥獣被害対策 実施隊の 活動範囲

- ・ 里にシカを寄せない活動
- ・ 里のシカ被害を軽減する活動

山間部

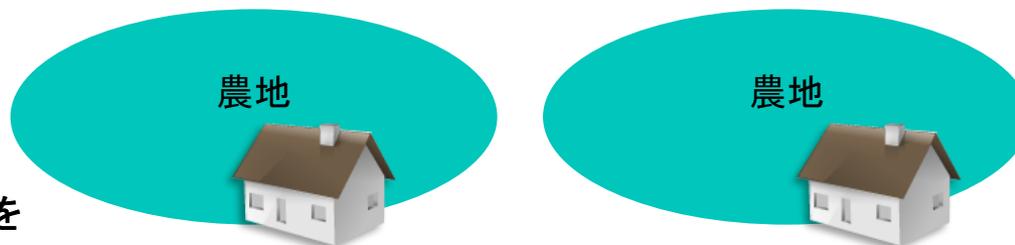


山間部や市民依頼に応じた農地周辺で捕獲活動を実施

捕獲応援隊の 活動範囲

- ・ 自己所有農地でシカを捕獲する活動の補助

農地周辺部



農地

農地

手薄だった民家周辺部の捕獲強化
原則として所有又は管理する農地の範囲内でわなの見回りと管理を実施

捕獲応援隊設置による効果

これまで抱えていた「鳥獣被害対策実施隊」と「農家」それぞれの課題の解決が期待できる

設置前（課題）

設置後（効果）

実施隊員

- ▼ 免許所持者の減少
- ▼ 駆除要望の増加
- ▼ わなの見回りが大変
- ▼ 夜は銃を使えない

- ★ 一部でも活動者が増える
- ★ 駆除要望に応えられる
- ★ 見回りの負担軽減
- ★ 夜に捕獲した場合も情報が早い

農家

- ▼ 農地を荒らされて困る
- ▼ 駆除したいが免許が無い
- ▼ 技術習得の時間がない

- ★ 自分の農地を守れる
- ★ 免許を取得しなくても、最低限の知識のもとでシカ駆除の一翼を担える

応援隊育成講習会の様子



- ・ 毎年2月頃に開催
- ・ 市広報紙などで周知
- ・ 市の実施隊が講師となり、ワナの扱い方などを学ぶ

ニホンジカ捕獲頭数の推移と応援隊の関わり

年 度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R 2	R 3	R 4
有害捕獲数	516頭	1,015頭	705頭	951頭	1,264頭	1,425頭	1,858頭	2,371頭	2,784頭	2,661頭
うちワナ捕獲	85頭	485頭	545頭	595頭	847頭	1,040頭	1,288頭	1,748頭	2,064頭	1,940頭
うち応援隊	—	88頭	67頭	98頭	115頭	116頭	150頭	278頭	427頭	382頭
ワナの割合	16.4%	47.7%	77.3%	62.5%	66.9%	73.0%	69.3%	73.7%	74.1%	72.9%

担い手の推移（単位：人）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R 2	R 3	R 4
実施隊	67	69	74	79	82	87	96	100	104	110
応援隊	—	107	125	125	131	135	141	148	170	161

終わりに

それぞれの役割の中で地域ぐるみの捕獲を推進していくことで、捕獲圧の向上、担い手育成も図る。

地域ぐるみによる捕獲を推進

- ・被害対策を市民と共有する
- ・市民参加型で捕獲効率を上げる
- ・参加型から新たな担い手を発掘する

応援隊

- ・農地の適正管理
- ・防護柵による防除対策
- ・補助者としての捕獲参加
- ・被害対策の情報収集

市

- ・仕組みづくり
- ・ノウハウの蓄積
- ・取組の積極的なPR
- ・優良事例の普及

実施隊

- ・捕獲の実践
- ・捕獲技術の向上
- ・補助者との連携